

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【向小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	同集団・異集団比較において苦手な分野に大きな変化が見られないことから、次年度は「自ら課題解決しようとする児童の育成」を研究主題とし、引き続き学校課題研修を軸に授業改善を図る。 主に、教師の発問や教材を工夫して児童が楽しみながら学べる授業を展開することで、児童の「分かる」「できる」を引き出し、自ら学ぼうとする力を育てていく。
思考・判断・表現	同集団・異集団比較において苦手な分野に大きな変化が見られないことから、次年度は「自ら課題解決しようとする児童の育成」を研究主題とし、引き続き学校課題研修を軸に授業改善を図る。 主に、育てたい力を明確にして授業づくりを行うことで、児童が学ぶ必要性を感じるとともに、試行錯誤しながら学ぼうとする力を育てていく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 自ら課題を見つけて取り組むこと。 <指導上の課題> 児童が自ら疑問をもち、課題に対して興味関心を高められるような授業実践。	⇒ 課題の提示の仕方や教材の選択の仕方、発問等を工夫した授業を実践する。【単元ごとに実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自ら課題を見つけて取り組むこと。 <指導上の課題> 対話力や言語力を身に付けさせ、児童が自らの学びを深められるような授業実践。	⇒ 児童が自らの考えを様々な方法で表現できるようにしたり、交流の仕方を工夫したりできるような授業を実践する。【単元ごとに表現・交流を実施】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	学校課題研修において、児童が自ら課題を見つけて取り組むための手立てを講じてきた。理科では、新たな視点や疑問が見出せる発問や教材を整理することによって、児童の興味関心が引き出され、自ら課題を解決したいという意識を引き出すことができた。また、体育では目標に向かって伸びる楽しさを実感できるような実践を重ねることで、成功体験が蓄積され、課題解決に向かう主体性が育成された。
思考・判断・表現	B	学校課題研修において、児童が自ら課題を見つけて取り組むための手立てを講じてきた。図工では、様々な表現方法を試すための用具を確保したり、児童どうしてアイデアやアドバイスを共有できる時間を確保することで、自分のイメージに合うものを探究しながら表現する姿が見られた。また、国語では魅力的なゴールを示すことで目的や相手意識が明確になり、めあてに沿った話し合いを行うことができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数では、小数の加法や異母数の加法などを解くことができた児童が多く、基礎的な四則演算を理解することができていた。
思考・判断・表現	国語では、文章から必要な情報を見つけ出し、自分の意見をまとめることができた児童が多かった。一方で、文章の内容を理解することや、要旨を把握することに課題がある児童が多かった。算数では、問題文を理解することに課題があり、解決するために必要な数量を見い出すことができなかった児童が多かった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では主語・述語の関係や指示語の理解、敬語の使い分けなど、言語のきまりの定着に課題があった。算数では繰り下がりのある計算や単位の換算、図形の性質の理解といった基礎的な技能が低い傾向が見られた。理科の実験器具の操作や社会の基本的な地理・歴史的事項の習得にも課題があった。これらの定着を図るため、反復学習やICTの活用、実感を伴う活動を通して、知識を確実に定着させ技能を高められるようにする。
思考・判断・表現	各教科で、問題場面を正しく読み解き、情報を整理・選択する力に共通の課題があった。国語では話し手の意図の把握や自分の考えの再構築、算数では文章題からの立式や数理的な説明に苦戦する傾向があった。また、社会や理科においては複数の資料を関連付けて考察し、根拠を基に記述する力に課題があった。今後は、対話的な学びや図表の活用を通じ、論理的に考えを深め、表現する力を育成できるようにする。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	学校課題研修において、国語、算数、体育、音楽、理科、図工のグループを組織し、児童が自ら課題を見つけて取り組むための手立てを講じている。主に、児童に見通しをもたせる工夫、児童が「楽しい」と感じることで主体的に学習できるようにするための工夫等を実践している。	変更なし
思考・判断・表現	B	R7年度全国学力・学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」(6年)の質問項目において、肯定的な回答の割合が89.8%だった。学校課題研修を通して引き続き対話力や言語力を育む授業を実践していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)